

## 2001年度上期国内PC(IA)サーバ出荷状況調査報告

ノークリサーチ(本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5:代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL : <http://www.norkresearch.co.jp>)では2001年度上期及び年度の国内PC(IA)サーバの出荷状況を調査した。2000年度実績、2001年度の予測も併せて調査、報告している。

### <2001年度上期 PC・IAサーバ市場のポイント>

**2001年度上期 PC・IAサーバ市場は相変わらず高い成長を示す**

- 対前年比 22.0%アップで、149,000台を記録
- 金額市場は横ばい。低価格サーバの伸び堅調で裾野拡大

**2001年度は14.3%増の326,500台とついに30万台市場へ突入**

**メーカーシェアに大きな変動。NEC 1位、2位グループにデルの躍進**

**インターネット関連とエントリサーバ需要(中堅・中小企業、ISP)が伸びを支える。自治体・教育市場が堅調。Win2000が急増、Linuxは1割程度。**

**ラックマウント型サーバ急増で、全体の約40%を占める**

**IA64などのハイパフォーマンス化がミッションクリティカルで拡大機運**

**対象期間** : (2001年度予測) 2001年4月から2002年3月。

**対象メーカー** : 電子情報技術産業協会(JEITA)自主統計参加及び未参加メーカー  
日本電気、日本IBM、富士通、コンパックコンピュータ、  
日立製作所、日本HP、東芝、三菱電機、デルコンピュータなど

**対象機種** : 電子情報技術産業協会(JEITA)定義に準ずる

**調査方法** : 当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

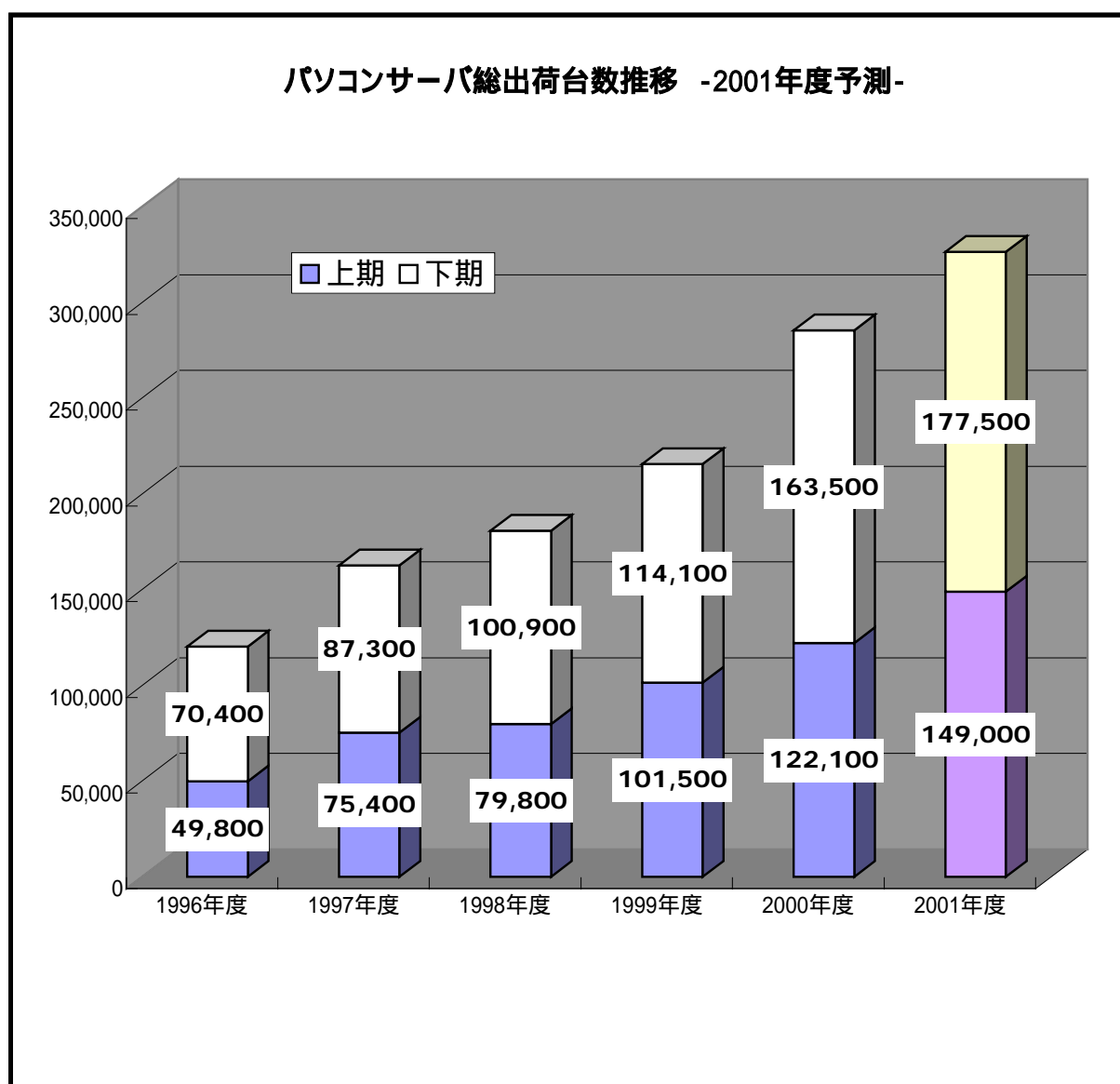
**調査期間** : 2001年10月~11月

## [2001年度上期出荷状況]

- 対前年比 22.0%アップで、149,000 台を記録 -

2001年度上期は台数で149,000台、前年対比22.0%増だった。前半の4月から6月までは中堅企業中心に好調な実績を示した。後半の8月以降は一転して経済環境の悪化による需要の低迷が顕在化し、伸びが急激に鈍化している。

しかし前半の中堅企業のインターネット需要を中心とするサーバ需要と官公庁、自治体など広範囲の普及と、ASP、ISP、IDCなどへの大型設備投資が全体を引っ張り、2001年度上期は対前年比22.0%増の149,000台となった。金額市場では平均単価の減少により、前年対比横ばいとなった。



## [2001 年度上期市場の特徴は次の 4 点]

2001 年度上期は経済環境全般の冷え込みの中、IT 基盤の整備の機運に支えられる格好で、PC サーバは高い伸びを維持してみせている。

インターネット関連の情報系利用は相変わらず堅調に推移

中堅企業での専用サーバ、中小企業でのエントリサーバの導入意欲が活発  
ASP、IDC、ISP などのインフラ投資での需要は好調を維持

自治体や学校関連のサーバの需要は堅調

2001 年度上期は前半の貯金を生かして、対前年比 22%アップの高い伸びを示すことができた。しかし米国の同時多発テロや世界経済の不況などに端を発する国内の消費の低迷傾向は、今下期以降の市場の行方を不透明にさせている。

しかし中堅・中小企業などの IT インフラの整備意欲は下期に入ってから堅調に推移し、また単価の低下傾向はますます購入意欲にドライブをかけている。そのため全般的な設備投資の冷え込みが、サーバ市場に極端に影響を与えることは少ないものと思われる。また政府関連の予算措置関連での需要も確実に見込まれる。特に官公庁、自治体、教育関連などに安定した需要が見込まれている。2003 年の電子政府構想が市場をリードする役割を果たしている。

## 「国内 PC (IA) サーバ出荷推移」

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
1996年度実績	49,800	-	70,400	-	120,200	-
1997年度実績	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
1998年度実績	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
1999年度実績	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
2000年度実績	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
2001年度予測	149,000	122.0%	177,500	108.6%	326,500	114.3%

## [2001 年度上期メーカーシェア]

### - シェアマップも混沌。NEC トップだが、2 番手グループにデルの大躍進

メーカーシェアでは NEC が依然トップ。24.8%のシェアで 2 番手以下を大きく引き離している。やはりチャンネル（地域販売店）と安定した直販パワーと幅広い製品対応と実績による安定感が同社の強みだ。特に全国のチャンネルでの中堅・中小企業向けのエントリ系サーバの展開と基幹系システムの攻略という地味な展開だが、着実にシェアを維持している。

2 番手は大きな変動が見られる。富士通が 15.1%で 2 位だが、3 位に IBM をかわしてデルが踊り出た。コンパックの低価格サーバによる攻勢はデルの前では苦戦を強いられている。富士通も NEC との比較でみても目立った攻勢がみられない。IBM もローソンの大型案件以降は目立った商談はなかった。

[2001 年度出荷見込み]

- 対前年比 14.3%の伸び、326,500 台 -

2001 年度低価格サーバを中心とする中堅・中小企業向けのソリューションが活発で、ラックマウントタイプも好調に推移しており、安定的に企業規模に関係無く需要が拡大するだろう。ラックマウントタイプは 2001 年度全体で約半数を占めることが予測される。また Linux は個別のソリューションではまだ実績は少ないが、インターネット系での一括大量システムなどでは実績をあげつつある。上期では 10%程度の割合であったが、年度では 20%弱のウェイトを示すだろう。

またミッションクリティカルな分野でも IA64 搭載のハイエンドマシンの登場で、好調な UNIX と競合することになるだろう。また科学技術系やクラスタ、フォールトトレラントなどの分野も下期の有望な市場だ。大規模から小規模までの PC (IA) サーバとしての守備範囲は 2001 年に大きく広がることは間違い無いところだ。

2001 年度は 2000 年度対比 14.3% 増の 326,500 台と PC サーバは 30 万台市場へと拡大する。

